

一般演題10-2

高気圧酸素治療時のバイタルサインの変化について

東 幸司¹⁾ 乗松由香¹⁾ 川口達也¹⁾
 沖野勝広¹⁾ 長野準也¹⁾ 楠 勝介²⁾

- 1) 済生会松山病院 ME部 臨床工学技士
- 2) 済生会松山病院 脳神経外科

【目的】前々回の本学会で高気圧酸素治療（以下HBOT）において治療開始時と減圧前の比較で血圧は全ての疾患で上昇し、心拍数は脳疾患において減少する事を報告した。今回HBOT時の各時点におけるバイタルサインを計測し、その変動を比較・検討した。

【方法】対象は当院でHBOTを行った連続症例59例、その内脳疾患17例・脳以外の疾患42例、平均年齢68.5歳である。同症例に対して治療テーブル2ATA／60分で延べ413回のHBOTを行い、HBOTの開始前・加圧後・減圧前・終了時の4つの時点の血圧、心拍数及び呼吸数を計測し、脳疾患と脳以外の疾患において開始時からの変動を検討した。装置は、第1種装置BARA-MED（ETC社製）、モニタは、高気圧酸素治療モニタHBOM-2000（エルクエスト社製）を使用した。

【結果】脳疾患の収縮期血圧では減圧前に、拡張期血圧で減圧前・終了時に有意な上昇を認めた。心拍数・呼吸数では有意差は認めなかった。脳以外の疾患の血圧は有意差は認めなかったが、心拍数・呼吸数で有意な減少を認めた。変動率では、脳疾患で変動率が高値を示し（図1, 2）、心拍数・呼吸数の変動はわずかでした（図3, 4）。脳以外の疾患では血圧の変動はわずかでしたが（図1, 2）、心拍数・呼吸数では減圧前から終了時にかけて変動が大きかった（図3, 4）。

【結語】HBOT時は疾患毎のバイタルサインの変化に注意して治療する必要がある。

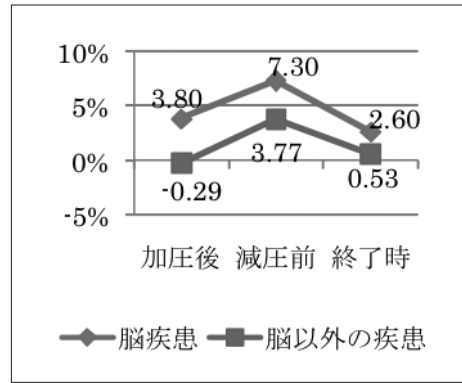


図1 収縮期血圧 変動率

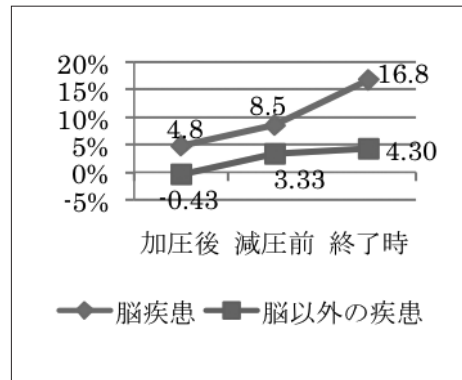


図2 拡張期血圧 変動率

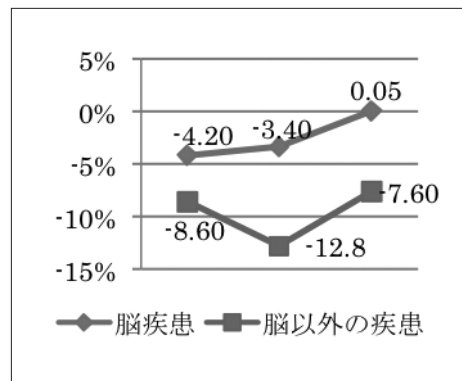


図3 心拍数 変動率

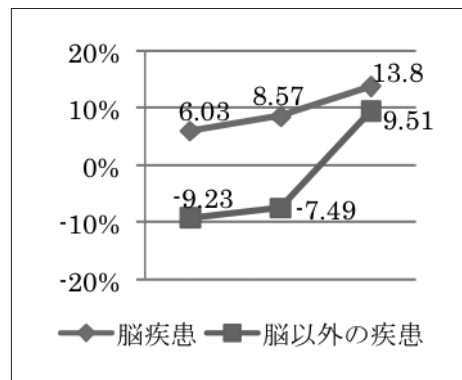


図4 呼吸数 変動率